

J A 全農ちば 営農情報集 (8月号)

今月の情報

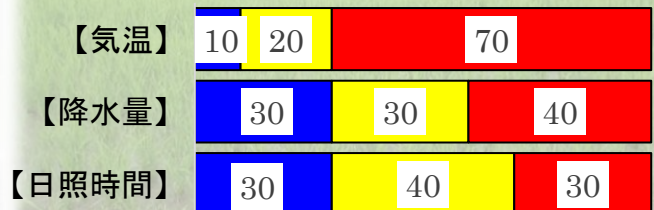
1. 令和3年産米 最後の仕上げ
～適期収穫と乾燥・調製について～
2. 園芸野菜・果樹 病害虫防除情報
3. トマトの生理障害について
4. いちご定植前(育苗期)病害虫防除プログラム
5. 安全な農作物生産の取り組みについて
～農作業事故防止について～

8月の気象について(気象庁 7/29 発表 季節予報(1か月)から)

1. 8月は気温が非常に高くなる予報です。
作物の生育や病害虫の発生も変動します
ので、栽培管理や防除、特に施設栽培
では特に苗・定植後の温度管理に注意
しましょう。

2. 高温のため熱中症の発生も懸念されます。
適度な休憩・水分補給を心掛けてください。

(長期予報(1か月)は毎週木曜日に発表されます。週予報とともに確認し、今後の栽培管理の計画を立てましょう)



凡例: ■低い ■平年並 ■高い

令和3年8月 J A 全農ちば 営農支援部

記載の農薬登録は作成時点のものです。農薬使用時は最新登録内容を確認し使用しましょう

営農技術情報集のカラー版や、その他の営農情報は全農ちばHP内営農情報コーナーにて公開中!

全農ちばHP < <http://www.cb.zennoh.or.jp/index2.html> >

令和3年産米 最後の仕上げ

～適期収穫と乾燥・調製について～

JA全農ちば
営農支援部

1. はじめに

梅雨明け後（関東甲信7月16日）、気温は高く、日照時間は多く推移しています。4月20日植えの「コシヒカリ」は平年よりやや早く出穂期を迎えています。

成熟期の判断について、いつもより葉色が薄い場合や水が不足している圃場は成熟期が早まる可能性があるため、成熟期の判断には注意をしましょう。

また、斑点米カメムシ類やいもち病が多く発生しています。発生状況を確認し、追加防除が必要な場合は収穫前日数に注意し、防除を実施しましょう。

2. 乳白米防止のために水管理の徹底

乳白米は、天候や水稻の生育量、肥培管理など様々な要因により発生します。特に登熟期に高温寡照が続くと水不足になり乳白米が多く発生し品質低下が大きな問題となります。

また自然由来のカドミウムの吸収を抑えるためにも出穂3週間前～出穂2週間後まで湛水状態を保つようにし、収穫直前の出穂後25日頃までは間断かんがいを続け、早期落水は絶対に避けましょう。

表1 品種・植付時期別の成熟期の予測

品種	植付時期	成熟期予測			
		県北 (香取市)	九十九里 (茂原市)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)
ふさおとめ	4月20日	8月15日	8月12日	8月11日	8月11日
ふさこがね	4月20日	8月21日	8月18日	8月17日	8月17日
コシヒカリ	4月20日	8月27日	8月24日	8月23日	8月23日
	5月1日	8月31日	8月29日	8月28日	8月28日
	5月10日	9月4日	9月2日	9月1日	9月1日
粒すけ	4月20日	8月27日	8月24日	8月23日	8月23日

※水稻の生育状況と当面の対策 第6報（千葉県農林水産部 7月28日発表）より

3. 刈取時期の判断について

水稻の刈り取り適期の判定は、一般的に出穂後の日数による判断と帯緑色籾歩合による判断があります。出穂後の刈取りまでの日数は各品種で違うので注意しましょう。また、天候不順や高温など天候によっては刈取りまで日数に大きく影響を与えるので、登熟ムラの可能性が高くなります。出穂後日数は大まかな目安に行い、登熟をしっかり確認（「**帯緑色籾歩合15%***」）し収穫しましょう。

表2 出穂から刈取りまでの日数の目安

品種	ふさおとめ	ふさこがね	コシヒカリ	粒すけ
出穂後日数	33日	37日	38日	38日

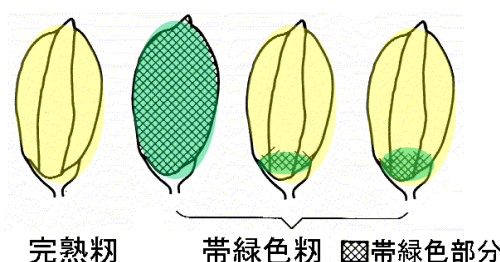


図1 帯緑色籾の見分け方

※帯緑色籾歩合とは籾に少しでも緑色の部分がある籾の割合のことで、帯緑色籾歩合15%の時に収穫を行います。

4. 乾燥・調製について

高温による急速な乾燥や過乾燥等は胴割れ米を発生させ、品質・食味を低下させます。乾燥の仕上げ水分は、14.5～15.0%(*)とし、特に過乾燥は避けましょう。

また乾燥直後の穀温が高い状態で籾摺りをおこなうと肌ずれ米等が生じやすいので、籾摺りは充分放冷してから行い、籾摺り機のロール幅は品種に応じて調製しましょう。

粒が小さい米が混ざると玄米の粗タンパク含有率が上がり、食味低下の要因となるため、選別は1.8mm以上の網目を使用し、粒張り、食味のよい「おいしいお米」を出荷しましょう。 ※JAにより受ける米の水分値が別に定まっていますので、事前に確認しましょう。

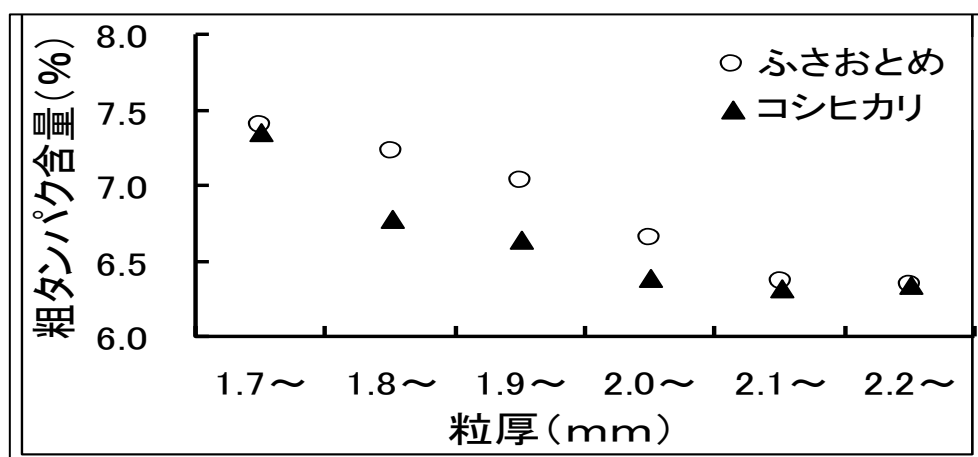


図2 粒厚と粗タンパク含有の関係

5. 生産履歴記帳について

生産履歴簿は皆さんが出荷するお米が、どんな品種で、どんな管理をして、どんな資材を使っているかを確認し、適切な管理で栽培したことを証明するためにあります。

出荷にあたっては記入漏れ・記入間違いが無いかももう一度生産履歴簿を確認し、JAへ提出しましょう。

提出前のチェック項目！

- ☐①JA 名・氏名の記入漏れ、押印漏れはありませんか？
- ☐②作付圃場の地番・面積、合計面積に記入漏れはありませんか？
- ☐③出穂期を確認して記入しましたか？
- ☐④収穫予定日を記入しましたか？
- ☐⑤選別網のサイズを確認しましたか？
- ☐⑥肥料・農薬の資材名はきちんと記入しましたか？
※使用量は10a 当たりで記入！
- ☐⑦JA 担当者に中間確認と最終確認をしてもらいましたか？

園芸野菜・果樹 病害虫防除情報

J A全農ちば
営農支援部

1. はじめに

8月は高温性病害（ネギ軟腐病など）、コナジラミ類等の害虫の発生に注意しましょう。
また一般的に、高温時や作物が弱っている時は薬害のリスクが高まるため、薬剤防除は早朝か夕方の涼しい時間に行いましょう。

2. トマト（コナジラミ類・アザミウマ類）



タバココナジラミ・黄化葉巻病被害

アザミウマ類

●育苗～定植時期の初期防除を実施しましょう。

育苗期～定植時の粒剤・灌注処理は必ず行いましょう。コナジラミ類・アザミウマ類は下葉から寄生が始まります。第一花房以下の葉裏には要注意です。薬剤を散布するときはノズルを逆手に持つなど、葉裏からも葉がかかるとような散布方法も織り交ぜましょう。また、薬剤だけでは十分な防除はできませんので、以下の対策も徹底しましょう。

●ハウスへのコナジラミ類・アザミウマ類の進入防止対策を実施しましょう。

- ・ハウス周辺の除草を実施し、発生源を除去しましょう。

コナジラミ類・アザミウマ類は雑草にも寄生します。また、野外の野良生えトマト（前作残さ）で見つかることも多いです。アザミウマ類は花にもよく集まるので、花き類・雑草の花も発生源になります。

- ・ハウス内に黄色粘着板を吊るし害虫の予察に努めましょう。

微小害虫のため発見が難しいので、入口、側窓側、天窓下など害虫の侵入口となる場所を中心に設置し予察を行いましょう。

- ・ハウスには防虫ネット(1mm～0.4mm)を張り、微小害虫の侵入を防ぎましょう。

目合いの細かいネットは風上側や入口など、害虫が侵入しやすい場所へ展張すると効果的です。

○トマト コナジラミ・アザミウマ 防除薬剤

薬剤系統	IRAC コード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用 回数
ネオ ニコチノイド系	4A	ベストガード粒剤	1～2g/株	育苗期(株元処理)	どちらか
				定植時(植穴処理土壌混和)	1回
ジアミド系	28	ベリマークSC	400 倍・25mL/株	育苗期後半～定植当日(灌注)	1回
		プリロッソ粒剤※1	2g/株	育苗期後半～定植時	1回
その他	9B	コルト顆粒水和剤※2	4000 倍	収穫前日	3回以内
IGR剤	15	マッチ乳剤※3	2000 倍	収穫前日	4回以内

※1 株元処理登録。乾燥状態では効果が出にくいです。処理後灌水を行いましょう。

※2 コナジラミ類対象 ※3 登録：ミカンキイロアザミウマは1000～2000 倍登録

3. ネギ（白絹病・軟腐病）

(1) 白絹病

白絹病は高温（30℃程度）と多湿により発生しやすい病害です。下葉がしおれ、地ぎわ～地下部の軟白部に白いカビや菌核（白い粒）が発生します。発生後の対策は困難ですので、土寄せを行う時にあわせて予防しましょう。

○ネギ 白絹病防除薬剤

FRAC コード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
7	モンカット粒剤	4～6kg/10a	土寄せ時・収穫 30 日前 (株元散布)	3回以内	予防
	モンカットフロアブル 40	2000 倍			
29	フロンサイド粉剤	15kg/10a	土寄せ時・収穫 21 日前	2回以内	予防
14	リゾレックス粉剤	20～30kg/10a	土寄せ時・収穫 14 日前	3回以内	予防
11+4	ユニフォーム粒剤	9kg/10a	土寄せ時・収穫 45 日前	1回	予防

(2) 軟腐病

軟腐病も白絹病と同様に高温（30～35℃）で発生しやすいです。地上部の生育不良やしおれから始まり、株元や軟白部が軟化腐敗し、腐敗臭が発生することが特徴です。細菌病のため効果的な薬剤が限られます(下表)。土壌伝染する病害ですので、株元にもかかるよう散布しましょう。

○ネギ 軟腐病防除薬剤

FRAC コード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数※	備考
31	スターナ水和剤	2000 倍	収穫 7 日前	3 回以内※	予防・治療
31+M1	ナレート水和剤(スターナ＋有機銅)	1000 倍	収穫 14 日前	3 回以内※	予防・治療
31+24	カセット水和剤(スターナ＋カスミン)	1000 倍	収穫 14 日前	2 回以内※	予防・治療
P2	オリゼメート粒剤	6kg/10a	土寄せ時・収穫 30 日前	2 回以内	予防

※スターナ・ナレート・カセット は合わせて3回以内（共通成分：オキシリニック酸）

4. ダイコン(キスジノミハムシ・ハイマダラノメイガ)

いずれの害虫も子葉展開時から発生し始めますので、早めに防除を実施しましょう。

(1) キスジノミハムシ

早播き（8月中旬～下旬）では被害が多く見られます。

成虫は体長数ミリで、食害痕として子葉に小さい穴が残ります。

根部の被害は土壤中に潜り込んだ幼虫が原因です。



(2) ハイマダラノメイガ(シンクイムシ)

成虫は体長1～2cmくらいの茶褐色の蛾で、

葉裏に産卵します。幼虫は生長点を食害するため欠株の

原因となります。本葉1～2枚ごろまでに防除を行いましょう。



○ダイコン キスジノミハムシ・ハイマダラノメイガ 防除薬剤

対象病害	IRAC コード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
キスジ ノミハムシ	4A	スタークル粒剤	9～12kg/10a	播種時	1回	全面土壌混和
	3A	フォース粒剤	6～9kg/10a	播種時	1回	全面土壌混和
	1B	ラグビーMC粒剤	20～30kg/10a	播種前	1回	全面土壌混和
	28	ベネビアOD	2000倍	収穫前日	3回以内	ハイマダラノメイガ にも登録
ハイマダラ ノメイガ	28	プレバソンフロアブル5	2000倍	収穫前日	3回以内	

5. ニンジン 一年生雑草防除

土壌に処理する除草剤は成分が水により土壌表面に広がることで、出芽してくる雑草を枯らし
ます。土壌が乾燥していると成分が広がらず効果が発揮されないので、適度に土壌水分がある時
に使用しましょう。乳剤を散布する場合は水量100ℓ/10aを基本とし、土壌の乾燥状態に合わせ、
登録の範囲で調整しましょう。

○ニンジン 除草剤

対象雑草	薬剤名	使用量	使用時期	使用回数	散布量
一年生雑草 (播種後)	ゴーゴーサン乳剤	200～400ml/10a	播種後出芽前	1回	70～150ℓ
	ゴーゴーサン細粒剤F	4～5kg/10a	播種後出芽前		－
	クレマート乳剤	200～400ml/10a	播種後発芽前	1回	100～150ℓ
	クレマートU粒剤	4～6kg/10a	播種後発芽前		－
	ロロックス	100～200g/10a	播種直後	1回	70～150ℓ

作成者：名雪・齋藤

トマトの生理障害について

J A全農ちば
営農支援部

1. はじめに

抑制作では高温、強日射によりさまざまな生理障害が発生します。原因を把握し対策することにより収穫量増、収穫時廃棄削減、等階級の向上を目指しましょう。

2. 着果不良

着果不良は高温、強日射、灌水不足、萎れ、1.2 段目の着果数が多い場合や活着が遅れた時、ホルモン処理が適切に出来ていなかった等が原因で発生します。

(1) 高温対策

暑さ、強日射から植物を守るために、遮光塗布剤や遮光ネットの活用を行いましょう。また天窓、側窓、妻面換気、循環扇等を活用しハウス内温度を低下させましょう。

(2) 葉面散布

抑制期は植物の生育が早く、高温による根傷みも発生しやすい為、養水分が根から生長点まで届きにくいことがあります。ホウ素やカルシウム入葉面散布剤を活用しましょう。

(3) 摘果

1.2 段目の着果数が多い場合、葉で作られた糖が1.2 段目の果実に集中してしまい、上段の生長点が細くなります。結果、不着果が発生しやすい状況になります。低段摘果を行い、樹勢の維持に努めましょう。

(4) 適期定植

活着が遅れると根張りが悪くなり樹勢も低下します。苗が根巻きする前に定植し植穴の土に灌水することにより苗と土壌をなじませましょう。活着を良好にして根張り促進、樹勢維持を行いましょう。

(5) ホルモン処理

ホルモン処理をタイミング良く行いましょう。
1 花房あたり 1~1.5 cc、気温の 5 倍を目安に 3 日おきに散布をしましょう。

遮光対策の実施



低段摘果



ホルモン処理





いちご定植前（育苗期）病害虫防除プログラム

ミヤコカブリダニ（バンカーシート）を利用した防除体系例

J A全農ちば 営農支援部



安全な農作物生産の取り組みについて

☆農作業事故防止☆

J A全農ちば 営農支援部

1. 農作業事故の現状

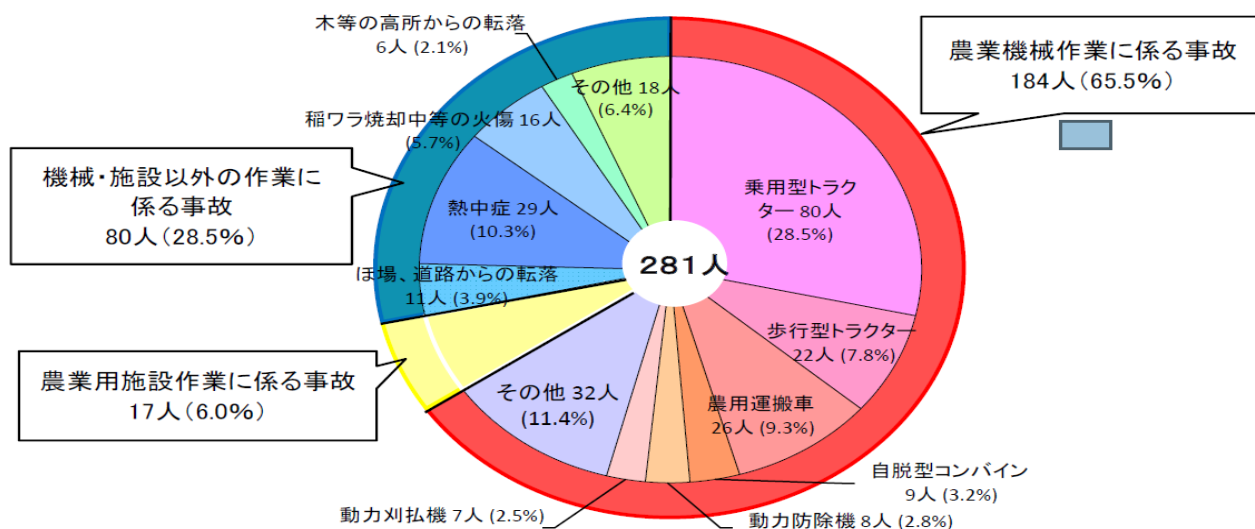
農林水産省では、1971年以降、産業別の死亡事故調査を行っています。農作業事故の結果を見てみると平成28年以降毎年約300件の事故が発生しており、令和元年では281件と、減少が見られない状況です。

農作業死亡事故の発生状況を年齢別にみると、65歳以上の方々が80%を占めております。また原因として機械作業中による事故が大半を占めています（下記グラフの赤色部分）。

『いつも大丈夫だから問題ない』『ちょっとだけだから…』に大怪我の危険性があります！

まずはワンチェック、ワンアクションで農作業安全を心がけましょう。

要因別の死亡事故発生状況（令和元年）



（農林水産省調べ）

農林水産省 農作業死亡事故調査より

2. 農作業事故防止

(1) 作業中は常に注意しましょう！

作業の終盤や疲れがたまった際に、ふと集中力が切れると事故が起こりやすくなります。特に高いところでの作業（脚立使用時等）では、最後まで気を抜かないようにしましょう。

(2) 作業中のトラブル時は、必ずエンジンを止めて確認しましょう！

「ちょっと確認するだけだから…」という時でも必ずエンジンを止めてから確認しましょう。



巻き込まれ注意！！

(3) 体にあった服装で行いましょう！

機械に巻き込まれる原因にもなりますので、袖のボタンなどもしっかりとめましょう。



(4) 二人以上での作業・携帯電話を持ち歩きましょう！

事故が起きてしまった際に、助けを呼べる体制で作業しましょう。